

市長と語る会(H30. 2. 28ふれあい会館会議室)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	<p>私の地区のわがまち支えあい協議会では、高齢者と子どもの見守りというテーマで活動しているが、地域のつながりを作ることが難しくなっている。防災、高齢者や子どもの見守りを行うにしても、どこにどういう方がいるのか把握できないと手も出せない状況である。自治会も加入世帯が減少し、地域に様々な技量を持っている方がいても知る機会が無く、つながりができない。学童クラブが終わった後の見守り活動を始めて出会う人もたくさんいて、そういうことを地道に1つずつやっていくことが大切だと考えている。</p>	<p>日ごろから府中の地域において、支え合いのまちづくりを進めていくために、御尽力いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。多彩な地域の方々がお互いに知り合って展開していただけると子どもたちにとって全部財産になっていくのではないかと思います。四谷の地域は、四谷小学校や日新小学校の児童数を考えると、人口が増えている地域。しかし、エリアが広大なため、なかなか人をつなげるのが難しい。昔からいる方は完全に農村地帯で生活してきた方で、後から来られた方は全然違うつながりを求めているということだと思います。</p>
2	<p>私の地区のわがまち支え合い協議会も学習支援を行ったり、買い物支援、障害者の方の送迎支援などを始めており、ようやく少しずつ根づいてきているのかなという感じがします。毎月協議会の全体会を開催していますが、新しく参加していただける方が少なく、当初からのメンバーだけでやらざるを得ない状況です。運営する側も年を重ね、新しい発想がなかなか生まれてこないが、地道に少しずつ、焦らずに進めていくしかないと思う。</p>	<p>一番最初の立ち上げのところですので、「何だそれは」という人がいたり、いろいろご苦労があるかと思うが、先ほどの四谷と同じで、高齢者の数や、おひとり住まいの方の世帯数を考えると、やはり既存の組織だけではなくて、「わがまち支え合い協議会」のような新しい考え方で地域に入っていくと、なかなか支えられないという感覚を持っている。</p>
3	<p>新町、栄町地区は、国分寺のほうが近く、周りの住民との接点があまりに少ない。子どもと高齢者をどのように住民と結びつけていくかという話し合いから始まり、民生委員の方を中心に地域の人たちと新町でわがまち支え合いの活動を立ち上げた。どうしたら参加してくれるか、資金、場所の確保の問題もある。</p>	<p>自治会の数が多い場所は、それだけ意見集約等の難しさがあると思う。わがまち支え合い協議会、包括支援センターなどの存在は、信頼関係があったときには何かのときにすぐに役立つし、支え合いの活動ができるのだろうと思う。</p>

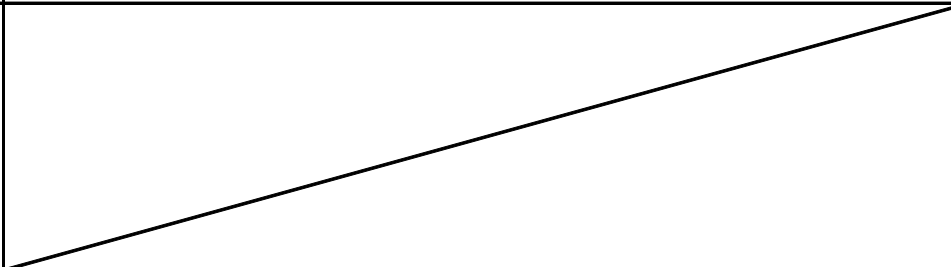
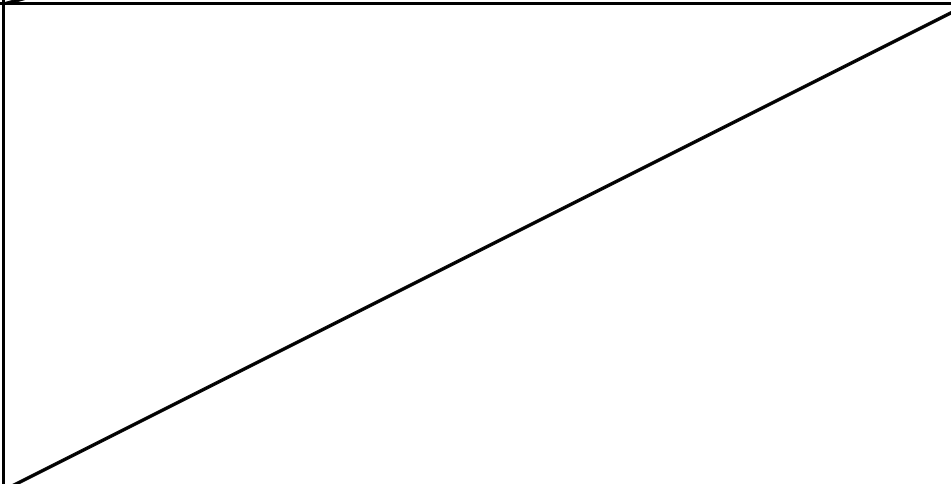
市長と語る会(H30. 2. 28ふれあい会館会議室)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
4	<p>参加する方も、女性が多く、男性が少ない。男性が参加しづらいというか、参加できないのではなくて、何かきっかけがないからではないか。きっかけがあれば、皆さん参加したいという気持ちはあるのではないかと思う。</p>	<p>民生委員の方と語る会をやったときに、女性はいいのだけれども男性がなかなか難しい。幾ら声をかけても来てくれないという話があった。</p>
5	<p>ボランティアとしてひとり暮らしの高齢者の部屋の掃除・片づけに行った際に、薬の山に驚いた。何年分も飲みかけてはそのまま、ほとんど飲んでいない状況。薬の管理をする人がいないといけないと思う。</p>	<p style="text-align: center;">/</p>
6	<p>認知症と一概に言うが、様々な種類があり、外見では判断できないというのもある。情報交換が支えあいを行うために必要ではないかと思っている。</p>	<p style="text-align: center;">/</p>
7	<p>地域活動は義務的にやるのではなくて、何か楽しいきっかけがあれば、生き生きとやってくれる。楽しみながら結果的に、まちもきれいになったり、活気づいたりということがいい。</p>	<p style="text-align: center;">/</p>
8	<p>老人会や自治会も会員がどんどん減る一方となってきた。わがまち支え合い協議会の活動がよい起爆剤になるのではと期待している。活動を立ち上げようとしても、市や社会福祉協議会の後ろ盾があれば非常にいいのではないか。</p>	<p>市内におよそ12万5,000世帯があるが、自治会や町会の加入率は多摩地域の中ではトップクラスだと思うが、毎年下がってきている。また老人会も、高齢者は増えているが、加入率はどんどん下がっている。この先を考えると、何かしなければならぬ。また、ボランティアも市全体の拠点となると、様々な人がいて、様々な人から刺激を受けていろいろな活動ができてきたが、地域となると今までのものと違う何かをつくっていかないと、これから立ち行かなくなるだろうと感じている。</p>

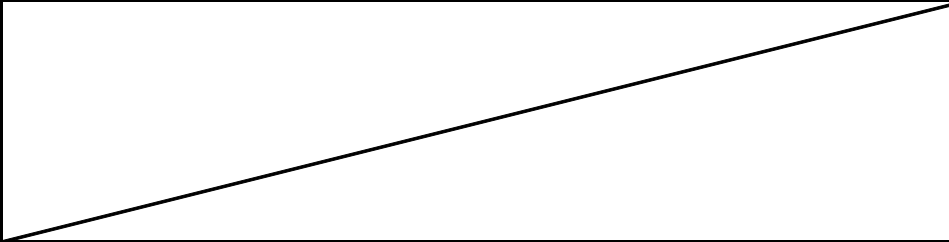
## 市長と語る会(H30. 2. 28ふれあい会館会議室)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
9	<p>小学校の道沿いに新しくコンビニエンスストアができ、出入りの車が非常に多かったので、登下校時の見守りを是政文化センターエリアのわがまち支えあい協議会の活動で月に2、3回行っている。協議会の話し合いは難しくても、この活動には協力できるという方が増えてそこからつながりが広がればよいと思っている。協議会の活動を多くの方に広めていきたいので、オリジナルのチラシを作成し、地域のスーパーの駐車場をお借りして、月1回配布している。</p>	<p>皆さんが活動していて、特にコーディネート役をしていただく方がいらっしゃるようになってから、活動を認識されている方も増えてきていると思うので、皆さんの活躍をぜひお願いしたい。</p>
10	<p>1人の方に寄り添って何か私にできること、お手伝いできることがないかとの気持ちで市民後見人を始めたが、実際に利用者に接してみると、必要なサービスを勧めようとしても、必要ないと拒否されてしまったり、ほかの機関とのつながりを持って支えられればと思いつつながら、一生懸命お勧めするが、それさえ拒否されてしまう。信頼関係を築いていくことの大変さを感じる時がある。ひとり暮らしで身寄りのない方の支援をやっていて、将来的には制度がないとやっていけないというのを感じるので、今後支える担い手が増えればと感じる。</p>	<p>信頼関係を築くのに1年間ぐらいかかる時もおありだそうで、そこから少しずつ支援のお話し、お勧めをしているとはお苦しいことと思う。献身的に現場でご尽力をいただき、重ねて感謝申しあげたい。情報が得られるように、また、得た情報をコーディネートするキーパーソンが徐々に育っていくことが、まず必要だろうと思う。</p>
11	<p>認知症になると皆さんすごく自信を無くされる。例えば、字を書くこと一つとっても、役所の書式の、すごくいっぱい字が書いてあって、ここに名前を書いてくれという書類があるが、名前を書く欄がすごく小さく、うまく書けない。それだけでも自信をなくして、もう字を書きたくないとなってしまうので、もう少し欄が大きいといいと思う。文章も理解しやすいような平易な表現にしてほしい。</p>	<p>行政の書類というのは、漏れがないように間違いが起きないように記入欄を設け、どうしても小さくなってしまいがちだが、ご指摘の点もよく考えていかないといけない。</p>

市長と語る会(H30. 2. 28ふれあい会館会議室)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
12	<p>地域福祉権利擁護事業、成人後見制度を担当しているが、まず制度の普及というところをやっていかなければならない。まずは、わがまち支えあい協議会でその周知をしていかなければいけないのかなと思う。介護者支援にも力を入れており、介護者応援ボランティアという介護経験をしている方が、今介護をしている方々の気持ちや悩んでいることを聞いたりして介護者の支援をしている。そこでの様々な情報交換により、市民の方が市民を支えるという大きな役割があると強く感じている。</p>	<p>福祉活動については、市や社会福祉協議会が行政としての責務を負っており、市民一人一人の皆さんが福祉を他人事にしないということが大事で、行政側も一人も置き去りにしないという意識を持っていかねばいけないと思っている。</p>
13	<p>ボランティアで通院のつき添い、見守りをしている。心がけているのは、病院で過ごす、2時間、3時間を楽しく笑って過ごしていただけたらいいと思っている。感じているのは、薬や同じものをたくさん買ってしまいう高齢者の方がいるが、いざというときに薬がないと困ることやすぐに買いにいけないなどの不安に感じている表れとも思う。</p>	
14	<p>在宅福祉助け合い事業を担当しているが、協力会員が主に60代、70代の方で、退職後に何か始めたいと思って、活動の場を探して携わってくださる方が多いと思う。気持ちよく活動してくださる協力会員がいることが、制度の支えとなっていると感じている。この事業により、ちょっと助けてもらいたいときに、助けてくれる地域になるとより安心な生活ができると思う。この事業では、様々な相談が寄せられるが、その相談内容には協力会員を探しても、協力会員だけでは人数が足りないケースなどもある。その場合、これは協力会員で行うが、これはわがまち支えあい協議会でできないかなど、組織横断的に情報交換と取組みができないか考えている。</p>	

市長と語る会(H30. 2. 28ふれあい会館会議室)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
15	<p>紅葉丘文化センターエリアでは、スーパーや店舗が少ない地域があるということで、買物支援について話し合っている。地域の方々と一緒に買物支援の仕組みを考えていく難しさを感じているが、自由な発想で地域の方々だからこそできる支え合いの仕組みをつくっていくことに楽しさとやりがいを感じている。</p>	
16	<p>わがまち支えあい協議会の皆さんで何かをやらうとすると、活動場所や資金といった、同じ様な問題で止まってしまう。場所さえあればやる気はあるし人も集まっているが、子どもの見守りをやらうと学校の近くで場所を探そうとすると、わがまちの活動って何、地域で何をするのと場所が借りられなかったり、実際に場所を借りて週1回で始めてみて、これを2回にしたいと思っても、今度はその場所を借りるための資金が足りないという話になってしまう。何かバックアップできるようなものがあればいいと思う。</p>	<p>わがまち支え合い協議会と歩調を合わせることができたので、文化センターが拠点になって、福祉を他人事にしないような、そういう地域づくりを進めていかなければならないと考えている。</p>